

市民の森づくりプロジェクト



市民の皆さんに喜んでいただけるような森づくりに取り組んでいます。

里山の大切さや山の恵みを利用する楽しさを理解・実感し、森林整備・自然観察・きのこ栽培・かんじき作りなどの活動を行いました。



主な私たちの活動を紹介します



きのこの駒打ち

11月下旬にホダ木用の木を伐採し、4月に玉切り、きのこの駒打ちを行いました。秋の収穫を夢見で頑張って作業に取り組みました。駒打ちの後は林内に敷設。乾燥を防ぐために少し埋めたり、落ち葉を掛けたり、敷設する場所を考えるのもなかなか難しいものです。

きのこの駒打ちには、一般市民の方にも参加を予定していたのですが、準備が間に合わず残念ながら会員のみで作業をおこないました。

市民の森の整備

月2回、定例整備日を設け、ボブスレー・リュージュパーク周辺の森を中心に森の整備を実施しています。

森は放置していると枯れ木が倒れてきたり、ツルが絡んでヤブ状態になったりします。

皆で愉しく、そして安全が第一で作業を実施しています。



かんじき体験会

2月にはリョウブの細い木を輪にした「かんじき」を作り、雪の上を歩くというイベントを行いました。

かんじき作りは、久しぶりだったので思い出しながらの作業でした。



自然観察、センサーカメラによる動物生体観察

8月下旬、市民の森の中でミズナラの枝の先が2～3cmくらいの長さで切られたものがたくさん落ちてました。枝がハサミで切ったようにきれいに切れていて、小さいドングリがついてます。

これは、ハイイロチョッキリという甲虫が未成熟なドングリに卵を産みつけて、その枝を切り落としたものだそうです。

ミズナラの枝先が落ちているのを今まで何度も見て、その都度なんだろうと疑問に思っていたような気がするのですがようやく謎がとけました。

森の中にセンサーカメラを設置して動物の生態を観察しました。

毎日、同じ時間にヒメグルミの木の下に現れるタヌキ、帰っていくのもほぼ同じくらいの時間でした。暗闇の中から目を光らせて6頭のイノシシが現れる場面は迫力ありました。

2mくらいの距離を飛んでカメラに向かってくるリスにも驚かされました。



プロジェクトリーダーから一言

山の作業を通して仲間と出会い、語り、喜びを分かち合うことができました。日常生活では味わえない何かが、そこにはあるのです。

長野市内に、市民が誰でも入ることのできる森があちこちにできて、自然の中で遊んだり、学ぶことが身近にできる、そんな森が長野市民の財産となって行く、そんな里山の在り方が、我々の夢でもあります。

ボブスレー・リュージュパークの奥の森は、私たちが手入れを始める前は、立入ることもままならない藪々の森でしたが、今では気持ち良く散策の愉しめる森となりました。どうか皆さんも一度この「市民の森」に来てみて下さい。



リーダー 内山 寛純